Peace Seeds ヒロシマの10代がまく種

ことしは被爆70年。被爆者（被爆者健康手帳を持つ人）の平均年齢は、3月末までに80歳を超えるとされています。かつて37万人以上だった被爆者の数は、20万人を割り込みました。被爆者の高齢化と減少が避けられない中、私たち10代は、被爆者の思いを直接聞ける最後の世代といえます。

広島に原爆が落とされて100年を迎える「2045年」。10代のジュニアライターは40代になっています。一方、被爆者はほとんどいなくなっているでしょう。その時、被爆地広島、そして日本は、どうなっているでしょうか。どうなっていてほしいと考えますか。

今回、ワークショップを通して今の社会と30年後の社会を結び、自分の関わり方を考えました。2045年に理想の「未来予想図」を実現する「種」を、私たちと共有しませんか。

〈ピース・シーズとは〉平和や命の大切さをいろんな視点から捉え、広げていく「種」が「ピース・シーズ」です。世界中に笑顔の花をたくさん咲かせるため、小学6年から高校3年までの45人が、自らテーマを考え、取材し、執筆していきます。

創刊号　被爆100年　2045年の広島

その1 あの日学ぶ仮想現実体験

被爆100年を迎えることし2045年の8月6日、広島市中区の平和記念公園を中心に「ピース・ドリーム・パーク」がオープンします。爆心地から半径5㌔圏全体をエリアとする平和のテーマパーク。路面電車で巡ってもらいます。広島大本部跡地（同区）に残る広島大旧理学部1号館にバーチャルミュージアムを開設するなど、被爆建物を活用します。

パーク内を走る路面電車の各電停にはボタンがあります。押すと、電停の一角から被爆した人の等身大フィギュアが現れ、被爆体験を話してくれます。世界20カ国の言語にも対応しています。

バーチャルミュージアムでは、被爆直後の広島市内を再現した中をカートに乗って回るアトラクションがあります。爆発時の光や爆風の衝撃、黒い雨などを体感できます。もちろんバーチャルなので体への影響はなし。安心してください。旧陸軍被服支廠（南区）での動員学徒の作業体験など、他の被爆建物でもいろんなアトラクションがあります。

「リアルな環境を体感し、原爆への理解を深めてほしい」と担当者。被爆体験を直接聞くことが難しくなった今、画期的な施設となるでしょう。

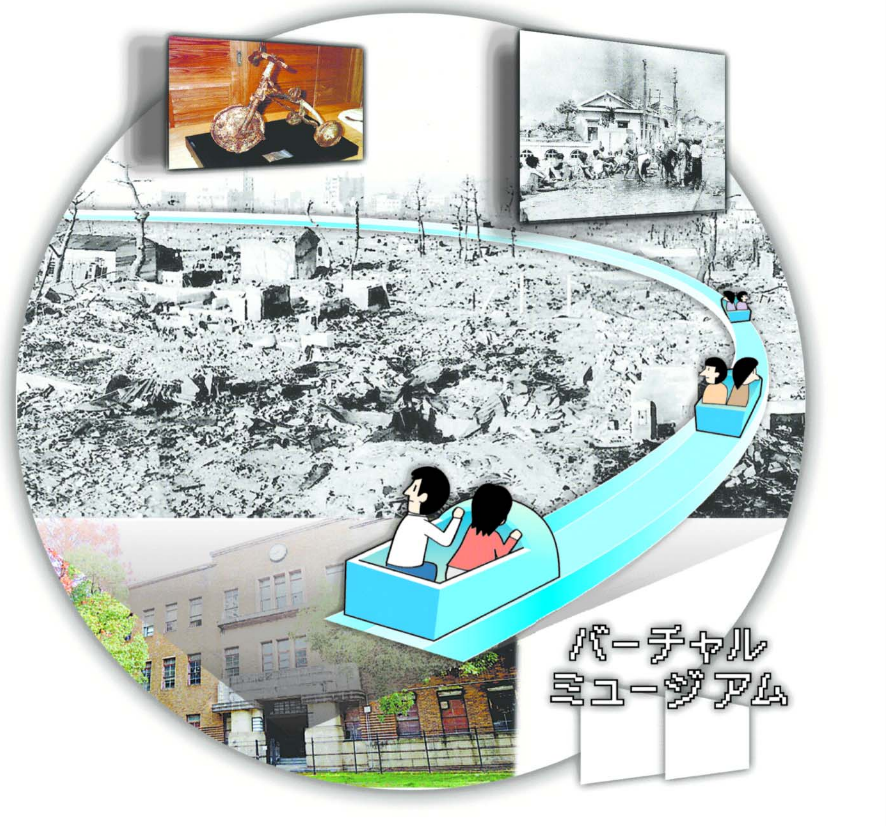
平和を学ぶ「ＬＴＡ」という名の新たな教育課程も全国で実施されます。ＬＴＡは、Ｌｅａｒｎ（学ぶ）、Ｔｅｌｌ（伝える）、Ａｃｔ（行動する）の頭文字から命名されました。原爆などの基礎知識の習得を中心とした、広島でこれまで行われていた平和教育を進化させ、「差別」「格差」「人権」など幅広い意味の「平和」について考えを深めます。

中学卒業後の海外留学を義務化。高校では生徒自身が平和教育プログラムを作り、中学生に対して授業をします。

プログラム作成過程で高校生同士が平和に関して意見を交換する場ができ、中学生に伝える経験を通して発信力も養えます。平和教育を自ら実践することで、生徒の主体性も育ち、グローバルな人材育成にもつながるはずです。

（高3・木村友美、高1・岩田壮）

そのために私たちがすべきことは…


バーチャルミュージアム

寄付募り被爆建物耐震工事

ヒロシマを伝える被爆建物を広島市が全て管理することにします。「広島の被爆建物群」として世界遺産登録を目指します。そのためには耐震補強が必要です。

（中2・岡田実優）

耐震工事費は、1980年代に盛り上がった「10フィート運動」のように、全国に募金を呼び掛けて集めます。目標100億円。国民1人当たり約100円の計算になります。

（高1・森本芽依）

戦争の負の遺産 各国を訪問

高校の修学旅行は世界各国の戦争による負の遺産の地を訪ね、平和教育プログラム作りに役立てます。現地の高校生と交流し、世界平和に向けての意識を高め、共有していきます。

（高2・河野新大）

義務教育最終年の海外留学では、ヒロシマについて英語で発表する機会もありそうです。中学の授業に、英語でのプレゼンテーション練習や留学生との交流を組み込み、英語発表の力を養います。

（中3・山本菜々穂）

証言フィギュアを作るため、被爆者に体験を語ってもらい、いろんな角度からビデオカメラで撮ります。被爆者の高齢化が進む中、早急に対応する必要があります。

（中1・谷魁人）

路面電車のつり革に音声機能を付け、イヤホンで被爆証言や平和に関する歌を流します。カード型IC乗車券PASPY（パスピー）で被爆建物への募金もできるようにします。

（中1・鼻岡寛将）

私たちジュニアライター
ピース・シーズ作ります(^_^)

その2 路面電車の車体が浮く
2045

世界的な調査機関の調べで広島市が「世界一住みやすい街」に選ばれました。理由は「全ての人に優しい」から。障害者や高齢者、子ども、外国人たちが、広島なら1人で自由に出かけ、やりたいと思うことが実現できるのです。

特に、130年以上も前から市民に愛され続ける路面電車が注目されています。近年、地元の大学と広島市、広島電鉄が、世界で広島にしかない新車両を共同開発しました。車体を浮かせて走ります。スピードが出せ、揺れが少なく快適な乗り心地。停車時には出入り口の高さが地面と同じになり、高齢者や車いす、ベビーカーの人も乗り降りしやすい仕組みです。

商工センター入口（西区）から江波（中区）、日赤病院前（同）を結ぶ路線も新たに整備されました。紙屋町（同）や市役所（同）など市内の主要地区を環状に結んでいます。

一方、被爆電車もまだまだ現役です。毎週日曜日の決まった時間に走ります。100年前のあの日の記憶と、平和を願う気持ちを風化させないために。

（高1・佐伯雛子）

電停までの歩道に屋根／各店舗には無料駐輪場

路面電車の利便性を高めてほしい、と広島市民が署名活動やソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）で情報拡散し、賛同の声を集めます。（中1・川市奈々）

広島市内の中高生たちが「世界初の浮く電車をつくろう！基金」という会を立ち上げ、募金活動をします。

（高1・二井谷栞）

広島県内の各大学で環境に優しい路面電車への関心が高まり、広島市、広島電鉄とともにつくる新車両の技術研究チームの大きな力となります。

（小6・目黒美貴）

広島電鉄は、乗る人が転ばないよう伸縮自在のつり革（ボタン式）を開発、設置します。降車を知らせる押しボタンの数を増やし、いろんな高さに付けます。

（小6・伊藤淳仁）

広島市が、電停までの主な道に、雪や雨でも移動しやすいよう、動く歩道と屋根を設けます。（高2・平田智子）

工事後にできる歩道のでこぼこ解消へ、大学と企業が共同研究し、常に路面を平らに保てる技術を開発します。

（中3・坪木茉里佳）

街中の各店が無料駐輪場を備え、広島市は放置自転車への罰則を設けます。放置自転車を減らして道幅を確保でき、事故が減ってみんなが通りやすくなります。

（高1・中原維新）

その4 全員が英語圏留学1年
2045

2045年度から「自分で選べる学校教育」をテーマに、教育制度が一新されます。従来、英語教育は小学3年からとなっていましたが、廃止。これまでの小学校6年間、中学校3年間という枠組みは、小学校5年間、中学校3年間に変更します。1年短くした分の時間と費用を充て、中学卒業後に英語圏への1年間の留学を全員に義務付けます。

小学校の教科は、国語、算数、総合生活だけに。中学から英語を加えます。生活に必要な知識を中心に学びます。総合生活は、現在の理科や社会、家庭科、道徳などに代わるもので、一方的に知識を受け入れるのでなく体験学習を主とし、話し合いやグループワークなどを行う能動的な学習の時間が導入されます。

高校からは、義務教育期間に自分が興味をもったテーマを集中的に学びます。大学受験は、筆記試験の形式を廃止し、受験生各自のプレゼンテーションによって合否が判定されることとなりました。

（高1・谷口信乃）

まず周囲の留学生理解／生きる力を幅広く養う

「総合生活」は、生きる意味を学び、その力を身につける教科です。技術家庭科や保健体育なども入ります。料理や縫い物のほか、インターネットの正しい使い方、けがへの対処、風邪の予防法など生活の知恵も体験しながら学ぶのです。まず広島で試験導入します。（中1・川岸言統）

中学卒業の子ども全員が留学するためには、多くの受け入れ先が必要です。国が安全と認めた英語圏の学校で、有償ボランティアのホームステイ先を募集します。

子どもたちは事前に学校で、英語圏の国・地域の文化や歴史を学びます。現地の人を招いたりテレビ電話で話したりして交流し、留学希望先5カ所を選択。抽選で決めます。僕ならまず、現在日本にいる留学生と意見を交換し、国際理解を深めようと思います。

（高1・谷口信乃）

現状を徹底的に調べ 理想とのギャップを埋めよう
NPO法人ひろしまジン大学の平尾学長

ワークショップの進行役で、NPO法人ひろしまジン大学（広島市中区）学長の平尾順平さん㊳＝写真＝は、「『2045年の広島』の夢を実現するには、まず現状を徹底的に調べ、理想とのギャップを埋めるようにするのが大切」とアドバイスします。

ジュニアライターが考えた理想像は「思いつかないものが多くて面白い」と言います。「防災」については「意識が変わると被害が少なくて済むだろう」と話します。「留学」は、1年間世界を旅して物事への見方が変わった平尾さん自身の経験からもお薦めだそうです。

「2045年に向けて、ぜひ一緒に夢を実現しましょう」と平尾さん。30年後の自分を具体的に想像し、今の自分と結べば、何をしないといけないかが分かってくる、と励ましてくれました。

（高1・河田紗也加）

毎月第2、第4木曜日に掲載します。

ジュニアライターが感想をつづった「編集後記」を、中国新聞ヒロシマ平和メディアセンター内のサイト（http://www.hiroshimapeacemedia.jp/junior/peaceseeds201501/）で見ることができます。

その3 災害避難 キャンプ体験
2045

避難体験キャンプが、2045年度から全国の小学校で導入されます。3年前から始めた広島市がお手本。毎月、学年ごとに災害の仕組みや過去の被害、対処法などを事前学習し、校内で避難生活を体験します。

全ての住宅に防災用品の装備が法律で義務付けられて25年。火災警報器の点検とともにチェックが行われています。隣近所で日常生活から助け合う「隣組」制度も広がっています。あまり外出できない人の家を週1回のペースで組内の担当者が見回ります。ボタン一つで救急車や近隣の助けを呼べる「玄関口ハザードランプ」も普及しつつあります。

携帯端末で災害速報を受信すると同時に、現在地からの避難経路の表示、登録者への位置情報送信が可能なアプリケーションは頼もしい存在です。地震などの災害時、被害や影響を最小限に食い止める「減災」に期待がかかります。ソーラーパネルと蓄電池がほぼ全家庭に設置され、停電に陥る心配もありません。

（高1・鼻岡舞子）

ＧＰＳ活用 情報アプリ／広報誌や世間話 絆強く

2014年の広島土砂災害の被災地域をモデルに、携帯電話やソフト開発会社の担当者が、地元の人とハザードマップを作ります。衛星利用測位システム（GPS）機能とも組み合わせ、災害時に情報を届けるアプリケーションを作り上げます。

（中1・平田佳子）

町内ごとに担当者を決め、クリスマスやひな祭りなどに合わせてお菓子や広報誌をボランティアで届けます。世間話なども挟み、少しずつ地域のつながりを強めます。

（中1・藤井志穂）

ハザードランプ設置は、高齢者世帯から始め、普及を目指します。火災警報器のように設置を義務化してもいいでしょう。（中2・中川碧）

家の中に防災棚を作り、水や乾パン、寝袋などをまとめて置きます。「お金より子どもの命が大事」と、まず大人に意識してもらいます。

（中2・上岡弘実）

ソーラーパネルと蓄電池の低コスト化が必要です。普及するよう国なども助成します。停電時も多くの家庭で電気が使えるようになります。

（中3・山田千秋）

災害に関する正しい知識を身に付け、それを確かめるサバイバルキャンプをまず子ども会などで開きます。その効果をインターネットや新聞などでアピールします。

（中3・芳本菜子）

エトセトラ

犬猫の殺処分ゼロ続く

2044年度は広島県の犬猫の殺処分数がゼロになって20周年でした。同県は33年前の11年度、犬猫の殺処分数が計8340匹と47都道府県で最多でした。それから13年後、ゼロとなり、今まで継続中なのです。かつて人間の身勝手な行動で失われた犬猫の命について忘れられそうになりますが、モラルが守られ続けるよう、過去の悲しい歴史を語り継いでいます。

◇

殺処分ゼロ実現に向け、官民の取り組みが大切です。行政は、営利目的で繁殖させた犬猫の販売に一定の規制をかけます。全ての犬や猫を対象に、戸籍登録制度を導入。犬を飼う人に税金を課すなど飼育の条件を少し厳しくします。

（中1・鬼頭里歩）

リニアの技 磁力自動車

磁力自動車を走らせるため5年前から行われてきた主要道路での工事が完了しました。磁石を道路に埋め込み、車に取り付けた磁石との間に生まれる反発し合う力を利用して進みます。リニア技術をさらに進化させ、省エネ・安定走行が実現。地球温暖化防止にも貢献します。

車の側には、磁石や簡単な運転装置を取り付けるだけ。車を買い替える必要はありません。公的な費用補助があり、世界で初めて国レベルでの実用化に成功しました。

◇

私は遠出する時は公共交通機関を利用します。車を買うとしたら、環境に優しい車を選びます。車メーカーには、ぜひ夢の磁力自動車を開発してほしいです。

（高1・岡田春海）

日中互いの流行を輸入

日本と中国では、音楽やドラマで互いの国のブームが到来しています。日本ではC―POP（チャイニーズ・ポップ）として中国のミュージシャンが、中国のドラマでは日本出身の俳優が活躍しています。

ことし開園74周年の広島市安佐北区の安佐動物公園では、5年前に中国からやってきたパンダのニンニンが母になろうとしています。出産予定は春ごろ。今やパンダはどの動物園にもいて人気者です。これは中国との関係がより深まった証しでしょう。

◇

友好都市の中国・重慶市と広島市の高校・大学生が夏休みなどに交流を重ねます。1～2週間、互いに行き来し、歴史や文化のワークショップ、碑巡りなどのグループ活動を通して友好を深めるのです。活動報告会も活発に開き、理解の輪を広げます。

（高1・福嶋華奈）